

教化センターだより

No. 403

発行日 2021年1月11日
発行 真宗大谷派大阪教区
教化センター
TEL 06-6251-0745
FAX 06-4708-3278

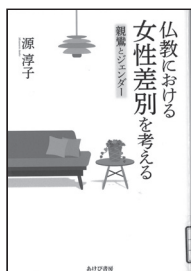
◆ 御堂文庫 蔵書の紹介 ◆

『仏教における女性差別を考える — 親鸞とジェンダー —』

[著者] 源 淳子

親鸞について書かれた本は山ほどありますが、わたしの親鸞は、研究ではなく、親鸞の教えとしての信心(信仰)でもなく、人生の支柱といったほうが的確です。わたしがジェンダーの視点で生き、ジェンダーと重なる仏教思想で生きてきたことを書きたいと思い、80歳近くになるまでに書けたらと思っていました。

(はじめにより引用)



〈発行〉 あけび書房

『さずかりの人生 欲の真ん中に自分を置かない生き方』

[著者] 青山 俊董

太陽の光という布施、空気という、引力という布施…。
天地総力をあげての布施を一身に頂いての今の私の命のいとなみであることを忘れず、それにふさわしい今この生き方でありたいと願うことである。

(本著より引用)



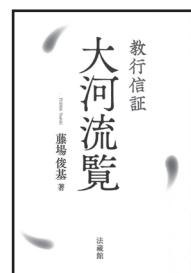
〈発行〉 自由国民社

『教行信証 大河流覧』

[著者] 藤場 俊基

「大河流覧」の「大河」には二つの思いがあります。一つは、『教行信証』の内容を、課題の大きな河の流れに見立てて、全体の構造を把握するという視点です。もう一つは浄土教が成立して今日に至るまでの仏教思想的な視点です。これは浄土教が単に仏教の一つの領域ではなく、浄土教こそが仏教そのものをトータルに見据えているということ、法然や親鸞が、仏教思想史の大きな流れとしてみているということです。

(あとがきより引用)



〈発行〉 法蔵館

— 教化リーフレットの
「活用」について —
4枚の「教化リーフレット」
は、各寺院・教会において「寺報」
や個別に複写しての配布、同朋
会や聞法会での教材としての活
用いただければ幸いです。

— 2月のリーフレット —

リーフレット①

「掲示板のよび」……藤井真隆

「本願に相應して
実報土に往生するなり」

リーフレット②

「今月のよび」……山雄達磨

「道綽決聖道難証
唯明浄土可通入」

リーフレット③

「もしもし相談」……永井貴宗

「亡くなった人は
お墓にいない?」

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおしえ」

「獅師と干し肉」

(敬称略)

本願に

相応して

実報土に

往生するなり

― 『歎異抄』 ―

今、社会問題となつて
いる認知症患者さんの共
通した症状は『帰りたい』
という願望があること
だといわれます。「どこ
かに帰りたい」「ここが
本当の居場所じゃない」
「でもその帰るべき場所
が見つからない」。こう
した衝動が“徘徊”とい
う行動となつて、年間
1万7千人近い方々が行
方不明になつておられる
というのです。

『たとえ家の記憶は喪
われても、帰りたいとい
う欲求だけは最後まで残
るのだ』(三島清円)

私はここに人間の深い
本心というか、本能的に
抱えている「いのちの
源」を求める人間の根源
的欲求(願い)が現れ出
てるように思うのです。

私達の日常の生活は、

目前の仕事に追われ、人
間関係にれて生きていま
す。そんな人生の方向や
身の置き所を失つて生き
る私達に、弥陀の本願は、
日々の自我一杯の生き方
を翻えさせ、真に依るべ
き「いのちの故郷(真実
報土)」へ立ち帰らせよ
うと、本願の名号とまで
なつて私達を喚んでおら
れるのです。

その「いのちの故郷」
こそ、自分を飾る必要も
なく、ありのままの自分
を受け容れてくれていた
本来の世界。それこそが
生ある全てのものを生み
出し、包み、養つて下さつ
ていた「いのちの源」で
あり、真に信頼すべき
「確かな居場所(帰依処)」
だと、浄土の教えは私達
に伝えているのでしょ
う。

(藤井真隆)

今月のことば

道 綽 決 聖 道 難 証

唯 明 淨 土 可 通 入

道綽、聖道の証しがたきことを
決して、ただ浄土の
通入すべきことを明かす

お釈迦様は「大医王」とも呼ばれます。なぜなら教えを聞くと、まるで名医に診てもらったかのように、苦が楽になるからです。ところでお医者さんは、いきなり注射を打ちますか？まずは「今日はどうしましたか」と、聞かれるでしょう。きちんと診断し、症状に合った治療こそが功を奏すのです。

した。これを「待機説法」といいます。「機」とは、その人の本質を表します。ですから幸いにも、私たちの前には、長い時と距離を超えて、それぞれの「機」に応じた特効薬が「お経」として八万四千余も並んでいるのです。ところが、私を診断してください「大医王」が亡くなつてあまりに時間が経っています。既に仏法は廃れ、教えだけが残る末法の時代、私という「機」に合った教えがわからないのです。

この問題に決着をつけたのが道綽禅師です。師は、西暦562年中国の小さな国に生まれしました。若くして僧となりました。これを「待機説法」といいます。「機」とは、その人の本質を表します。ですから幸いにも、私たちの前には、長い時と距離を超えて、それぞれの「機」に応じた特効薬が「お経」として八万四千余も並んでいるのです。ところが、私を診断してください「大医王」が亡くなつてあまりに時間が経っています。既に仏法は廃れ、教えだけが残る末法の時代、私という「機」に合った教えがわからないのです。

この時、道綽禅師は「嗚呼、凡夫という「機」であるからこそ、歩める教えがある」と気がつかれたのです。つまり「自分の力を尽くして覚りを得るといふ聖道門の歩みは、努力精進が足りないという不安から、さらに難行を求め、一層不安を産むことではない。そうではなく、煩惱に振り回される凡夫の「機」である私が歩む道は、阿彌陀如来のはたらきである念仏によって浄土に往生する他は無い」と決着をつけられたのです。

(山雄 達磨)

今月のことば出典『正信偈』

『真宗聖典』

206頁

『真宗大谷派 勤行集』(赤本)

もしもし相談



亡くなった人は
お墓にいない？

問

夫が他界し、10年
になります。毎月の
命日にはお墓にお参
りし、夫が寂しくないよう、
一カ月間の出来事などたくさ
ん話かけています。

息子たちからは「お墓に父
さんはいないよ」と言われま
す。夫はお墓にいないのでし
ようか。いないのならお墓は
何の為にあるのでしょうか。

(65歳・女性)

答

お念仏の教え
からたずねます
と、いのち終え
た衆生は、みな諸仏とな
って極楽浄土に還かえられる

と説かれます。ご主人も
また何の不足もない浄土
という世界で諸仏となら
れておられるので、娑婆しゃば
世界で感じる苦しみや寂
しさというものはありま
せん。

亡き人を

案ずる私が

亡き人から

案ぜられる

という法語があります。
亡き人を案ずるだけでし
たら、「弔ひつとくう」とか「悼いたむ」と
いう気持ちで手を合わ
せる。あるいは生前ご主
人がお好きであったもの
をお供えされたり、日ご
ろの出来事をお話すると
いうことで良いのでしょ
う。法語からたずね直す
と「亡き人から案ぜられ

る」と言われております。
お墓の前で、諸仏となら
れた亡きご主人を縁とし
て、生きている私たちが
仏さまの教えを聞いてい
く。そういう視点が大事
なことなのでしょう。

だからといって、語り
かけることをしてはいけ
ないとは言いません。亡
き人に対するお参りの心
がなければ、忙しく、身
勝手に、自己中心的な生
き方をしている私たちは、
お内仏やお墓で手を合わ
すご縁をいただくことが
ないかも知れません。
そういう意味でいうと、
仏さまの前で立ち止まり、
合掌がっしょう礼拝らいはいすること、その
こと自体が実は尊い仏の
恩徳おんとくをいただいていると
いうことになります。

浄土真宗におけるお墓
は、亡くなった方にお願
いごとをしたり、亡き人
を案ずるだけの場ではあ
りません。南無阿弥陀仏
とお念仏を申し、ともに
仏法をいただく場であり
ます。自分も必ず死んで
いかなければならない身
であることと、今、現に
生かされていることの尊
さを亡くなられた方、つ
まり諸仏からの願いとし
て教えられ、気づかされ
ることが大切なことなの
でしょう。

そしてまた、亡き人を
縁とし、自らの「生」を
考える場をいただくこと
が、お墓を建てる大切な
意味であります。

(永井 貴宗)



仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ (186)

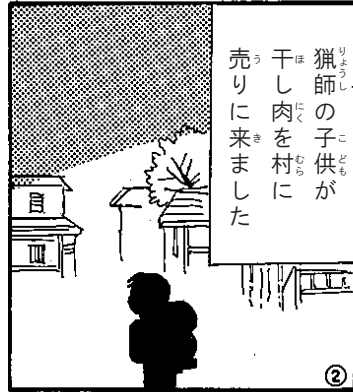
猟師と干し肉

好き嫌い
してない？



①

猟師の子供が
干し肉を村に
売りに来ました



②

あ
猟師が来たぞ！



③

やーい
獣臭いぞー！



④

肉を米と
交換して
もらえませんか

え…



⑤

これだけ…？



⑥

お父さん…
少なくて
ごめん…

なぜ
僕は
嫌われるの？



⑦

命を奪う仕事だからな

だからこそ
命の尊さを知っている



⑧

辛さを知ったなら
その分優しく
なりなさい

やがて父は
亡くなりました



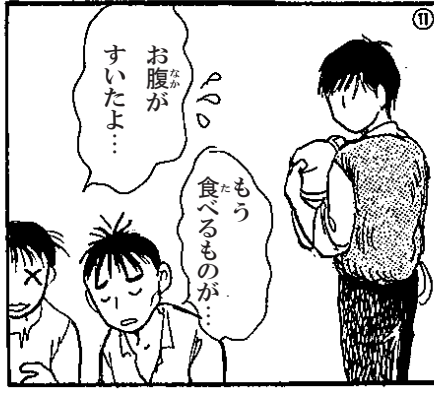
⑨

数年後
悪天候が
続きー



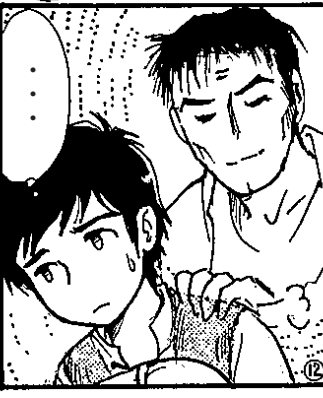
⑩

もう
食べるものが…



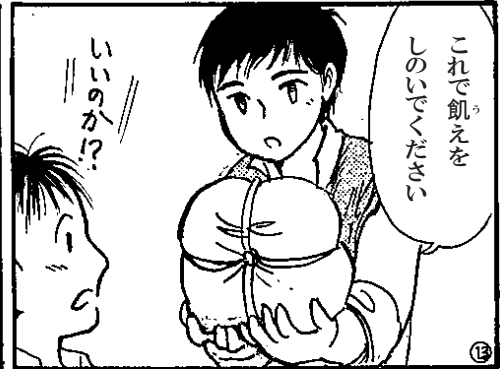
⑪

お腹が
すいたよ…



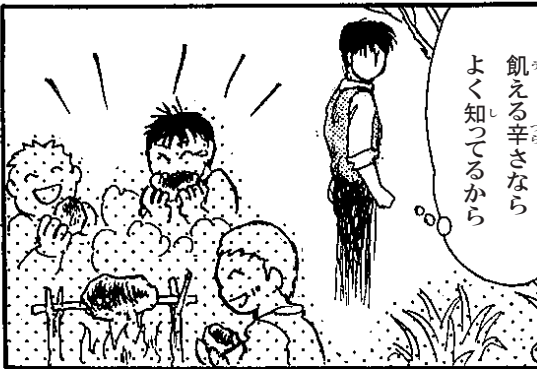
⑫

これで飢えを
しのいでくださる



⑬

飢える辛さなら
よく知ってるから



⑭

命を
いただいて
いるんだよ



⑮

参考・『ジャータカ物語』

『ジャータカ』は、仏陀の過去生の物語集。パーリ語聖典では、22編547話からなっています。多くの經典の中に引用されて、經典の広がりとともに、世界各地に伝えられました。(ジャータカ315)